

岡山県の土地改良



新年のご挨拶

岡山県土地改良事業団体連合会
会長 石井 正弘

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、平素から本会の運営並びに農業農村整備事業の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、皆様方が各地域で取り組まれております様々な活動に対しまして、深く敬意を表する次第であります。

今年は巳年ということでありますので、脱皮しながら大きくなっていく様子に例えて、飛躍の年になっていくのではないかと大いに期待をしているところであります。

さて、最近は安全保障ということがよく言われておりますが、いわゆる外交・防衛にとどまらず、経済の安全保障もあり、様々な防災関係の安全保障も必要かつ大事であります。

私どもが担当しております農業農村整備事業に関係する農業につきましても、食料という国民の生命を預かっている大事な基幹産業であり、世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクが高まっています。こうしたことから国では農政の憲法とも言われている食料・農業・農村基本法を改正し、食料安全保障の強化や農業の有する多面的機能の発揮、農業の持続的な発展及び農村の振興という4つの基本理念を掲げ、施策を推進することとしているところであります。

県内におきましても、農業農村整備事業を通じた新たな農業の展開により、新規就農者をはじめとして、移住が促進されるなど、まさに地域の活性化、地方創生の象徴的な事例も芽生えてきております。

これらをさらに推進し、広げるために必要となります国の令和7年度の予算編成にあたり、県内会員の皆様はもとより中国四国地域と一体となって国の省庁などに対し、県内の取組や成果などの具体例を示しながら、農業農村整備事業の重要性を訴えかけてまいりました。

こうした全国的な活動を受け、令和7年度農業農村整備事業関係当初予算は、4,464億円が閣議決定され、これに昨年末に編成されました6年度補正予算を加えると、昨年度と比べ260億円の増額となる計6,500億円を確保することが出来ました。これもひとえに、皆様方のご理解ご協力と熱心な要望活動の成果と感謝申し上げます。そして、今年土地改良法も改正されます。

こうした状況を踏まえ、創立から67年目を迎えた本会におきましても、今後とも会員の皆様方からの負託はもとより、多くの地域の皆さんの期待に応えるべく一層努力してまいりますので、引き続きのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

結びに、今年一年の皆様方のご健勝とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶といたします。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

令和7年の年頭に当たり、全国の土地改良事業に携わっておられる皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、年始めの1月1日に石川県能登地方を震源とした震度7の大地震が発生し、能登半島を中心に甚大な被害が発生するとともに、9月には記録的な豪雨により奥能登ではさらに被害が増し、能登半島は未だ復旧、復興の途にあります。

また、全国各地で記録的な豪雨が相次ぎ、大きな被害が発生しました。被害を受けられた地域の一日も早い復旧・復興を祈念いたしますとともに、我々土地改良団体も団結して被災地の支援に取り組んでいかなければなりません。

さて、令和7年の干支は乙巳（きのとみ）であります。努力を重ね、物事を安定させていくという意味合いを持ち、これまでの努力や準備が実を結び始める時期とされています。これまで我々土地改良関係者が積み重ねてきた様々な努力が実を結ぶ年となることを強く祈念するところです。

昨年、食料・農業・農村基本法が改正され、「食料安全保障の強化」、「環境と調和のとれた食料システムの確立」が新たな柱に位置付けられました。令和7年度農林水産関係予算は、農業の持続的な発展、農村の振興等を図るため、農業の構造転換の実現に向けた施策を初動の5年間で集中的に実行するとともに、農林水産業の持続可能な成長を推進するための予算となっており、農業農村整備事業関係予算においては4,464億円が確保され、令和6年度補正予算を加えると6,500億円となります。皆様の熱意ある要請活動と農林水産省をはじめとする関係各位の御尽力に厚く御礼を申し上げます。

第5次男女共同参画基本計画及び土地改良長期計画において、令和7年度までに女性理事が登用されていない土地改良区及び土地改良区連合をゼロに、併せて女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標に設定されており、いよいよ最終年度を迎えました。皆様の御理解をいただき着実に女性理事の登用が進められてきたところですが、目標達成に向け、更なる取組をお願いしたいと思います。将来の土地改良団体の体制強化と発展には女性の力は必要不可欠です。女性が活躍できる環境づくりに関係各位の一層の御理解と御協力をお願いします。

そして、本年は我々の職域の代表である宮崎雅夫さんの勝負の年ともなります。

もう一人の代表である進藤金日子さんと共に全国津々浦々の現場を回り、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。二人体制の重要性を十分に御理解いただき、皆さんの声を国会に届けるためにお二人の活動の支援をお願いします。

「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。「闘う土地改良」を旗印として組織一体となって更なる闘いを続けていこうではありませんか。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域の農業・農村が活力を得て、一層発展するよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



新年にあたって

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子

岡山県土地改良事業団体連合会の皆様には、平素よりお世話になっております。

昨年は元日に能登半島地震、8月に宮崎県沖地震が発生し、南海トラフ地震の発生可能性が高まり、巨大地震注意臨時情報が発表されました。改めて地震大国日本を感じ、国土の防災・減災、国土強靱化を進めていく必要性を痛感した1年となりました。

昨年6月には食料・農業・農村基本法が改正され、初動の5年を「農業構造転換集中対策期間」として農業政策の再構築を図ることとしており、本年は初動一年目の重要な年となります。

また、私は一昨年の12月14日から約11ヶ月間、財務大臣政務官を務め、国の財政について日常的に接する機会を得ました。国家財政の観点からも我が国の将来像を考えていく必要があります。

さて、現在の防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策は、計画期間が令和3～7年度、事業規模は概ね15兆円程度となっています。現在、次期対策の国土強靱化実施中期計画の検討が進められていますが、この計画に土地改良について「農業水利施設等の老朽化、豪雨・地震対策」や「防災重点農業用ため池の防災・減災対策」等を位置付け、事業規模も現対策以上の規模を確保する必要があります。

次に農政については、本年3月までに食料・農業・農村基本計画が策定されます。政府の方針は、「輸入依存度の高い麦・大豆の増産、水田政策を見直す取組、輸出の抜本拡大を図る取組等について効果的な政策を基本計画に盛り込む」（令和6年8月27日、「食料安定供給・農林水産業基盤強化本部」）ことであり、今後、具体的な検討が進められます。

食料安全保障の確保のためには、食料自給力の強化が不可欠で、①土地改良対策、②担い手対策、③試験・研究、普及・生産対策をパッケージで実施することが必要です。このうち、土地改良については、令和6年度補正予算の2,037億円と令和7年度当初予算政府原案の4,464億円を加え、6,500億円の予算を確保しました。この予算を活用して対策を進めていく必要があります。

最後に我が国財政を見てみます。令和6年度末の公債残高は、特例公債（いわゆる赤字国債）残高が803兆円、建設公債残高が298兆円で1,105兆円となる見込みです。この15年間に公債残高はほぼ倍増し、赤字国債は2.26倍、建設公債は1.25倍となっています。建設国債は社会資本ストックを後世に残すことから、後世に負担を求めることが可能ですが、赤字国債の負担を求めることは困難です。デフレから完全脱却して経済成長を促し、将来にわたり税収を増やして財政の健全化を図り、後世の負担を軽減し、政策選択の自由度を確保することが重要です。

農政や国土強靱化、我が国経済の転換の節目である令和7年のはじめにあたり、決意新たに農業農村の振興、国家の発展に向けまい進していきたいと考えています。同志の宮崎雅夫議員共々皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げますとともに、岡山県土地改良事業団体連合会の一層のご発展とご繁栄をお祈りいたします。



新年にあたって

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 宮崎 雅夫

岡山県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、土地改良事業の円滑な推進や施設の適切な管理にご尽力いただいておりますことに心から敬意を表しますとともに、私、宮崎雅夫の国政活動に多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

また、昨年也能登半島地震をはじめ、各地で甚大な災害が発生しました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く日常生活を取り戻して頂けるよう、復旧・復興に最大限の努力をしてみたいと思います。

さて、昨年は、社会情勢の不安定化等に起因し、食料や資材価格等が高騰するとともに、全国的に食料供給に対する懸念も広がった1年でした。食料は、生命維持に不可欠なものであり、どのような事態が生じたとしても安定的に確保することが国の責務であります。このような状況に対応するため、四半世紀ぶりに「食料・農業・農村基本法」を大幅に改正しました。

私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、現場でお聞きした皆様のお声やご要望等に対し、それぞれの状況に即して、国政の場から全力で対応してまいりました。土地改良関係の令和6年度補正予算では、昨年度の補正予算から260億円増の2,037億円を確保できました。加えて、12月に閣議決定した令和7年度当初予算案では、前年度を上回る4,464億円が計上され、補正予算と合わせて総額6,500億円を確保することができました。皆様方のご尽力に感謝申し上げますとともに、次期通常国会において、早期成立に向け努力してまいります。

また、改正基本法に沿って、土地改良法を始めとする関係法令等の新設・改正を行うこととしています。特に、本年は改正基本法を実効あるものとしていく「農業構造転換集中対策期間」5ヶ年がスタートする年であり、より良い施策展開のためには、現地課題等を十分に把握し、それに対応したものとなるよう全力で対応してまいります。

本年は私にとって節目の年となりますが、引き続き「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を基本理念として、皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいります決意ですので、引き続きのご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、岡山県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様方の益々のご発展とご健勝を心より祈念申し上げます。



新年のごあいさつ ～儲かる産業としての農林水産業の確立を目指して～

岡山県農林水産部
部長 中山 均

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様方には、平素から本県農林水産行政の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

岡山県は温暖な気候、豊かな水を湛えた三大河川、北に爽やかな蒜山高原、南に広大な干拓地と風光明媚な瀬戸内海など、全国屈指の自然環境に恵まれており、そこで育まれる農林水産物もまた、全国に誇れるものであります。

一方、本県農林水産業を取り巻く状況は、人口減少や高齢化による担い手の減少、地球温暖化の進行による異常気象や自然災害の増加に加え、国際情勢の変化による飼料や肥料、資機材価格の高騰など厳しい状況が続いております。

そのような中、県では現在策定を進めている、県政推進の羅針盤となる「第4次晴れの国おかやま生き活きプラン」や本県農林水産行政の基本計画となる「おかやま農林水産プラン（仮称）」に基づき、県産農林水産物のブランド力強化や、力強い担い手の確保・育成、市場ニーズに応えることのできる産地の育成や供給力の強化、そして、これらを支える生産基盤の整備を進めてまいります。

特に高い競争力を誇る桃やぶどうを中心に、新規就農者の確保・育成、生産基盤の整備などを一体的に行うハイブリッド産地育成推進事業に総力を挙げて取り組んでおり、引き続き時代の変化にも対応できる農林水産業の振興を図ってまいります。

また、国内外での効果的なプロモーションによるブランド化の推進や、先端技術を活用したスマート農業による生産性の向上、耕畜連携による飼料用作物の生産などに注力するとともに、地域が目指す将来の農林水産業に最適な環境となるよう、生産基盤の整備や老朽化した施設の保全対策を計画的に進め、儲かる産業としての農林水産業の確立を目指してまいります。

さらに、激甚化・頻発化する自然災害から地域を守るため、防災重点農業用ため池の改修や廃止、海岸保全施設や排水機場、治山施設の整備等の防災・減災対策も引き続き進め、安全・安心な地域づくりに努めてまいります。

本年も関係団体の皆様方と連携し、本県農林水産業の一層の振興に取り組んでまいりますので、引き続きのご支援・ご協力を賜りますよう、お願いいたしますとともに、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
参与 大賀 則男

会員の皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、本県の農業農村整備事業の推進に当たりまして、格別の御支援と御協力を賜り、心からお礼申し上げます。

昨年は、本県で多くの明るいニュースがありました。特にパリオリンピック・パラリンピックにおいて体操の岡慎之助選手が3つの金メダルと銅メダル、車いす陸上競技の佐藤友祈選手が銀メダルと銅メダルを獲得するなど、思い出に残る大会になるとともに、県民に明るい希望と活力を与えて頂きました。また、サッカーのJリーグでは、ファジアーノ岡山が見事にプレーオフを勝ち抜き、念願のJ1への昇格を果たすなど、まさに、辰年にふさわしい隆盛の年となりました。

そして、本県の農産物においても首都圏における販売金額や海外への輸出金額は右肩上がり続けており、岡山の魅力発信の一躍を担っておりますが、これはひとえに、土地改良施設の管理を通して産地を支えていただいている会員の皆様のおかげであり、改めて感謝申し上げます。

農政に目を向けてみますと、昨年6月に「食料・農業・農村基本法」の改正法が施行され、国民1人1人が良質な食料を合理的な価格で安定的に入手できる「食料安全保障」が基本理念の中心に据えられました。農業農村整備の関係では、安定的な食料生産をするための生産基盤の維持が位置付けられており、高齢化や人口減少が進む中、先人が築いてきた農地や農業用施設に新たな視点も取り入れながら、保全していくことが、我々に課せられた大きな使命と考えているところです。

県においては、現在「晴れの国おかやま生き生きプラン」や「21おかやま農林水産プラン」の見直しを進めておりますが、次期計画においても「儲かる産業としての農林水産業の確立」を引き続き基本目標として、これまで以上に魅力ある農林水産業づくりに取り組んでいくこととしております。このため、担い手への農地の集積・集約化や市場のニーズに応じた収益性の高い作物の導入が図られるよう、効果的・効率的な生産基盤の整備に取り組むとともに、基幹水利施設の長寿命化対策や農村地域の防災・減災対策にも計画的に取り組んでまいります。

今年は乙巳の年であり、これまでの努力や準備が実を結び始める年と言われております。そのため、辛抱強さが試される年にもなります。担い手の減少や燃料費、資材価格の高騰など、依然として厳しい環境は続いておりますが、引き続き、粘り強く取り組む姿勢が重要と考えており、一步ずつ着実に前進してまいりますので、会員の皆様の更なる御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして明るく幸多き年となりますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
耕地課長 天野 哲也

あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、つつがなく新春を迎えられたこととお慶び申し上げますとともに、日頃から本県農業農村整備事業の推進に格別の御理解と御協力をいただいております。深く感謝申し上げます。

さて、昨年は県庁舎が3年半にわたる改修工事を終え、前川建築のデザインを残しつつ、南海トラフ巨大地震においても、災害対策拠点としての機能が失われないよう耐震性が強化されました。併せて、県庁食堂も8年ぶりに復活し、県産品とのコラボメニューの開発など、県産品も食していただける取組も行っております。県庁にお越しの際はぜひ、御賞味いただけたらと思います。また、他にも開設10周年を迎えた首都圏アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」や、豊かな海の実現と魅力ある水産物の消費拡大を推進する情報発信拠点施設「農林水産総合センター水産研究所『おさかな学習室』」など、様々な施設においてリニューアルが行われました。

本県の農業農村整備においても400施設以上ある基幹的な土地改良施設を将来にわたり適切に維持されるよう、リニューアルを行っております。引き続き、計画的な長寿命化対策に取り組み、本県が誇る桃やぶどうなどの産地の持続的発展に寄与してまいりたいと存じます。

また、本県の高品質な農産物は首都圏や海外でも高い評価を受けており、市場のニーズが高まっていることから、農地中間管理機構関連農地整備事業等を活用して水田を園地として再整備するなど、産地の規模拡大を行うとともに、研修ほ場の設置等による担い手の確保・育成など、桃やぶどうの供給力強化に向けた総合的な取組を進めています。

一方、昨年の8月には南海トラフ地震の想定震源域で大規模地震が発生する可能性が普段より高まっているとして、初めて臨時情報が発表され、防災・減災対策の大切さを再認識させられました。県では4,000箇所を超える防災重点農業用ため池がありますが、防災工事等推進計画に基づき、ため池の改修や廃止、ハザードマップの作成など、ソフト・ハードを組み合わせた対策を計画的かつ集中的に推進しています。今後ため池サポートセンターを活用しつつ、より一層対策を加速化してまいりたいと存じます。

そして、本年も土地改良区や市町村の皆様方と連携を深めながら、こうした各種施策を進め、元気で活力ある農業・農村となるよう全力を尽くしてまいりますので、会員の皆様の更なる御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして幸多き発展の年となりますよう祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
農村振興課長 中村 哲郎

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆様方には、日頃より農業農村整備事業を通じ、本県の農業・農村の振興に、御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、国際情勢の不安定化などを背景に、肥料や資材などの輸入物価が高止まりするなど、我が国の食料供給を揺るがす事態が続いており、国においては、燃料・生産資材等の価格高騰に対する即効性のある政策や、四半世紀ぶりに改正された「食料・農業・農村基本法」には、良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され国民一人一人が入手できる「食料安全保障の確保」が新たに明記され、その取組が進められたところです。

本県でも、人口減少や高齢化による担い手不足、農地の荒廃等による生産活動の低下に加え、肥料・燃料・資材高騰など農業を取り巻く状況は厳しさが増しており、次代を担う力強い担い手の確保・育成、経営の効率化に向けた農地の集積・集約化に加え、地域の特色ある農業生産活動が継続できるよう、関係者が一体となった取組を進める必要があります。県では現在策定中の「第4次晴れの国おかやま生き生きプラン」や「おかやま農林水産プラン（仮称）」に基づき、農林水産業が儲かる産業として確立するための各種施策の推進に取り組んでまいります。

また、農地の集積・集約化については、地域の将来の農業や農地利用に関する目標等を定めた地域計画をもとに、農地の効率的利用や生産性の高い担い手の育成が図られるよう、農地中間管理事業を活用した取組等を進めることとしております。

さらに、中山間地域の農業・農村の活性化を図るため、荒廃農地の発生防止や多面的機能の維持・発揮に向けた日本型直接支払制度を推進するほか、農村RMO形成に向けた取組の支援、農家民宿、直売所などと食や地域観光資源等を結び付けた魅力向上にも取り組むこととしております。

特に、農地の畦畔等の草刈作業については、高齢化が進行し、負担が増加していることから、作業の省力化を図るため、それぞれの地域で最適なりモコン草刈機の導入支援の取組を進めてまいります。

本年も、会員の皆様と力を合わせ、粘り強く諸課題の解決に取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きの御支援と御協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆様方の御健勝と御繁栄を祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。

令和7年度農業農村整備事業関係予算確保に向けた要望活動 —岡山県農業農村整備事業推進協議会・岡山県土地改良事業団体連合会合同—

11月12日（火）、13日（水）の2日間、岡山県農業農村整備事業推進協議会と岡山県土地改良事業団体連合会は、総務省、財務省、農林水産省、自由民主党及び岡山県関係国会議員に対し、令和7年度農業農村整備事業関係予算確保に向けた提案・要望活動を行った。

今回の活動は、推進協議会会長の友實赤磐市長、県内土地改良区を代表して砂川右岸土地改良区の尾崎理事長、山南土地改良区の浮田理事長と植田会計主任、岡山県耕地課の片山総括参事、県土連は石井会長と田窪副会長常務理事らが参加し、地域の実情を訴えるとともに、積極的な意見交換を行った。



総務省 自治財政局 大沢局長



財務省 主計局 山川主計官（農林水産係担当）



農林水産省 農村振興局 前島局長



農林水産省 農村振興局 青山次長



農林水産省 農村振興局 緒方整備部長



自由民主党 福田幹事長代行



衆議院議員 逢沢 一郎



衆議院議員 山下 貴司



参議院議員 進藤 金日子



参議院議員 宮崎 雅夫（秘書）



参議院議員 小野田 紀美

令和6年度農業農村整備事業地域推進会議を開催

土地改良関係者に農業・農村の振興に係る情報を提供し共通認識を深めるとともに、農業や地域振興の一層の推進を図ることを目的とした農業農村整備事業地域推進会議を県内3ヵ所で開催した。

会議には会員である市町村職員、土地改良区の役職員をはじめ、岡山県の農業農村整備事業関係者、県土連職員等、3会場（備前：岡山プラザホテル、備中：ホテルグラン・ココエ倉敷、美作：津山鶴山ホテル）で延べ166名が参加した。

会議では、岡山大学農学部准教授の本田恭子氏から「土地改良団体における女性参画の現状と課題について」、NPO法人英田上山棚田団理事の梅谷真慈氏から「耕作放棄地対策と鳥獣害対策（上山地区の取組）について」の講演や、岡山県農林水産部から「岡山県の農業農村整備事業について」の情報提供が行われた。

講演後は、土地改良区における女性参画やスマート農業、地域おこし協力隊についてなど多岐にわたる質疑応答があり、とても有意義な会議となった。参加者のアンケートでは、担い手の農地集積や、土地改良区の女性理事登用、補助事業等について幅広い意見・要望が多く寄せられた。

会議終了後は意見交換会を開催し、活発な意見交換の場となった。



【備前会場】県からの情報提供



【備中会場】本田先生の講演



【美作会場】梅谷さんの講演

開催日	会場	参加者内訳					合計
		講師	県	市町村	改良区	県土連	
11月15日(金)	岡山プラザホテル	4	8	6	26	12	56
11月19日(火)	ホテルグラン・ココエ倉敷	4	8	6	14	12	44
11月8日(金)	津山鶴山ホテル	3	7	10	33	13	66

令和6年度全国水土里ネット女性の会研修会

11月6日（水）、東京のTKP赤坂カンファレンスセンターにおいて、全国水土里ネット女性の会が主催する、令和6年度全国水土里ネット女性の会研修会が開催された。

当日は、各県女性の会役員や、各県土連の職員など約100名が参加した。

冒頭、全国水土里ネット女性の会の西会長（熊本県土地改良事業団体連合会）の開会挨拶があり、全国土地改良事業団体連合会室本専務理事、全国水土里ネット会長会議顧問進藤金日子参議院議員が祝辞を述べた。

続いて、室本専務理事から、「男女共同参画、偉人の至言から読み取る」と題した講話が行われた。

その後、落語家の桂右團治氏から、落語で聞く「男女共同参画」と、古典落語「鮑あわびのし」を聴講した。

最後に、全国土地改良事業団体連合会土地改良広報センター牧所長から、「令和5年度男女共同参画推進業務報告」の説明を受けた後、グループワークが行われ、職場等での男女共同参画への具体的な方策についての話し合いが行われた。



西 会長



桂 右團治 氏

令和6年度中国四国ブロック水土里ネット女性理事意見交換会を開催

11月29日（金）、岡山プラザホテルにおいて、令和6年度中国四国ブロック水土里ネット女性理事意見交換会を開催した。

「第5次男女共同参画基本計画」及び「土地改良長期計画」において、令和7年度末までに女性理事のいない土地改良区及び土地改良区連合をゼロにするとともに、理事に占める女性の割合を10%以上にすることが成果目標に位置付けられている。その達成に向け、中国四国ブロックの当番県として意見交換会を開催し、各県から77名の水土里ネット関係者が集まり、農業・農村の現状や土地改良事業を進める意義などについて理解を深め、土地改良団体全体の男女共同参画の推進を図った。

意見交換会では、岡山大学農学部の本田准教授から「土地改良団体における女性参画の課題と方策」について、中国四国農政局農村振興部の山田部長から「話題提供」、鳥取県土地改良事業団体連合会の檀床理事から「少しの応援」、全国土地改良事業団体連合会土地改良研究所の三木所長から「食料安全保障と土地改良」について講演があった。

講演後には本田准教授がコーディネーターとなって3人のパネラー、山田部長、檀床理事、三木所長とともに、「更なる女性理事登用に向けて課題と解決方策」「将来を見据えた農業水利施設等の保全管理について土地改良団体がやるべきこと」「食料安全保障の強化のために土地改良団体に必要なこと」の3つのテーマで出席者も交えてパネルディスカッションが行われた。

その後の懇親会では、和やかな雰囲気参加者の親睦を深めることができた。



第 67 回学校農業クラブ岡山県大会



11月19日(火)、岡山県立高松農業高等学校において第67回学校農業クラブ岡山県大会が開催された。

この大会は、県内農業関係の高校8校で構成する「岡山県学校農業クラブ」の生徒が、日頃の活動の成果を発表し、クラブ員相互の研修と交流を深めることによって、将来の農業の担い手を育成するとともに、産業人としての資質向上を図ることを目的として毎年開催されている。当日は約720人の生徒が参加し、表彰式や発表会が盛大に行われ、当会は測量競技(セオドライトの部)の最優秀賞の受賞者に対し、岡山県土地改良事業団体連合会長賞を授与した。

未来へつなごう!ふるさとの水土里子ども絵画展 2024 受賞作品決定

未来へつなごう!ふるさとの水土里子ども絵画展(主催:全国水土里ネット、都道府県水土里ネット)は、農業・農村の素晴らしさと重要性を次世代に引き継いでいくため、絵画を通して子供たちに田んぼや農村に関心を持ってもらうとともに、大人たちへのメッセージとして子供のまなごしを届けることを目的として、全国の小学生以下の児童を対象に2000年から実施している。

今回の絵画展では、全国から約3,000点の応募があり、10月8日~9日に開催された審査会において農林水産大臣賞等6点、協賛企業・団体賞26点、地域団体賞53点、入選146点、佳作170点が選ばれた。

岡山県からの入賞、佳作作品は次のとおり。

地域団体賞

「晴れの国 水土里ネット岡山会長賞」



「おじいちゃんのにんじんばたけ」
山根 和音葉さん
(赤磐市立山陽小学校1年)

佳作



「田んぼでみつけたヒクイナ」
川瀬 誠さん
(赤磐市立山陽小学校1年)

佳作



「ぶどうのせんべつ中」
池田 優奈さん
(赤磐市立山陽小学校3年)

岡山県の土地改良 題字:石井正弘書 第618号 令和7年1月6日発行

発行所●岡山県土地改良事業団体連合会 〒700-0824 岡山市北区山下1丁目3番7号 県土連ビル
☎086-225-0921 fax086-226-0068
総務部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館3F・2F
☎086-207-2200 fax086-207-2202 e-mail:info@okadoren.or.jp http://www.okadoren.or.jp
岡山ため池安全管理サポートセンター 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館2F
☎086-207-2324 fax086-272-3937
ため池相談窓口(月、木) ☎086-207-2282
事業部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館2F
☎086-273-2110 fax086-272-3937
事業部技術第三課 〒708-0051 津山市椿高下128-1
☎0868-35-2178 fax0868-35-2179

